新春雑感

大川創業株式会社
代表取締役会長　大川　進一郎

明けましておめでとうございます。お陰様で新春雑感も６回目を数える事となりました。それだけ私の拙文を読んで頂いている方がおられるという事は嬉しい限りです。

今年の書初めは「前途遼遠・日々新たなり」としました。月に一度の論語勉強会で、渋沢栄一氏の著書「論語と算盤」の中に、中国の湯の盤の銘に「苟ニ又日ニ新ナリ、日ニ日ニ新ニシテ、又日ニ新ナリ」とある。日々に新たにして日々に新たなりは面白い。全て形式に流れると新の心掛けが肝要であると書いてある。日に新たにして「行動を興す」とか、改革、改心、創造、研究、鍛える等を書きたいが、千差万別、各人異なるので最後の行動の内容は各自に任せた方が良いと考え、「日に新たなり」で終えた。「前途遼遠」もやはり論語の事を書いた下村湖人著の「論語物語」から拝借した。全ての事業、夢の実現は「前途遼遠」ではあるが、怠ることなく、失敗を恐れず、コツコツと実績を積み上げていけば、必ず大願成就する。と信じて認めた。

恒例の十干十二支は、毎年安岡正篤先生の著書「干支の活学」を基にして書いているが、「干支の活学」は安岡先生自ら結成された関西師友協会での先生の講義内容の記録であるが、私の月に一度の論語勉強会の講師が現関西師友協会の役員、金谷善夫氏であるのも因縁深い。その関西師友協会が今年は「コミュニケーションを図り、視野を広げる年」と言っておられるので、それを追加させて頂く。

今年の干支は「戊戌（ボ・ジュツ、つちのえ・いぬ）」。戊は茂に同じ。前年の丁、丁度良い年に続いて陰陽繁雑する意味。干支は単なる占いではない。天文学、考古学、暦学上の重大な問題であり、その意義、価値については現代の日本人よりは却って西洋の歴史家、特に考古学者、天文学者等が興味を持ち、これを見直し重用している。暦学やそれに基づく色々の説が民間に普及しますと共に発達し、日本にも陰陽五行思想や陰陽道、讖緯説というのも流行った。（中略）昔は年始に政府が暦を国民に配った。それは古代の日本は農耕民族だから、国民はこれによって一年間の生産計画を立てられるし、立てさせることによって、国家、政府の行政計画もまた立つのだ」と安岡先生は師友会で語っておられる。

戊は茂で樹木が茂ると風通しや日当たりが悪くなって虫がついたり、末枯れしたりして樹が傷む。悪くすると枯れる。そこで思い切って剪定しなければならない。戊は紛糾と衰敗を意味するから、速やかに剪定賦活する事。利己的になってはならぬ。「己に克って礼に復（かえ）るのが仁である（論語・顔淵）」「己を正して人に求めなければ怨は無い（中庸）」。

支の戌は戊と一とから成り、一は点、即ち戌（ジュ・まもる）ではない。干は幹、支は枝で、生命、創造、造化の過程を表す。戌の戊は茂に等しく、一は陽気を意味し、草木茂る中に陽気を蔵するので裁整の意味がある。今年は思い切ってあらゆる停滞を一掃することにより維新、一新する事ができる。それを怠ると今年は破壊を伴う革命が起こる。しかし、戌に戌、つまり茂が２つも重なるのは、60年に一度の大成期・大繁栄・大繁盛と同時に枝葉の繁みの重さ、暗さで樹木が倒れ、先が見えない。剪定を果敢に断行すれば道は開く。二重に繁栄するか大革命が起こるかは紙一重。要注意、波乱万丈の年。

昨年突然天皇が退位を申し出された。私と同い年。仕事の決裁、海外訪問、到底私の比ではない。生前退位はあって然り。それより戦前なら不敬罪になるところだが、天皇が早く代わって兎も角元号を変えてほしかった。何かの拍子に元号の画数を携帯の画数辞典で調べて驚いた。明治（16画・大吉）、大正（８画・吉）、昭和（17画・半吉）、平成は何と（12画・大凶）。道理で平成になってから不況を脱出できないでいる。29年も不況が続く事は過去無かった。４～５年不況が続いても２～３年は好景気になる。命名された我が尊敬する「干支の活学」著者、安岡正篤先生の生涯唯一の汚点と言えよう。平成の成のフが古来２画の為、晩年の事でうっかり間違われたのだろう。トップを正す人が1人でも居たら１億の国民はそう困らない。トップがしっかりしないと下は総崩れになる。

決定されるまでに次の元号が間違いのない様願いながら待っていたら、ある会合の新年会で与党寄り

の市会議員から次の元号は「和合」で決まり。と聞き、「一寸待って下さい。」と調べたら、和合（14画・大凶）。29年も苦しまされて、更に不況は続くのか。冗談じゃない。変えてほしい。「和久」なら大吉だと言うと、「国会議員に言ってほしい」と言われ、当選挙区選出の衆院議員に便りを出すと丁重な返事が来た。これで安心と思いきや、この夏お会いする機会があったので、その後どうなったかと訊ねたら「私のようなペイペイが提案できるような立場じゃない。だから副大臣１回のみ。小泉進次郎や石原伸晃等は同じ２世であっても堂々と主張を述べているではないか。そこで内閣府に直接メールを入れたが音沙汰なし。良い方向に進んでいる事を祈る。30年不況が続き、長いマラソンの末、終着点と思いきや、ゴールはまだ30年先だと言われたくない。与野党が言い争っている場合ではない。

私の「真一郎」が大凶と分かり、即、元の波乱万丈の「進一郎」に戻した途端、昨春の選抜高校野球では決勝戦で我が大阪桐蔭高校が８対１で履正社に打ち勝ち優勝した。高校の同窓会に出席すると、全員が私に「大阪桐蔭の校歌が流れる時、テレビ画面に出てくる『作曲　大川　進一郎』は私の高校の同級生やと自慢している。頑張ってや。」と言われるが、頑張るのは私ではなく選手たちだ。しかし、これだけの仲間が桐蔭を応援してくれているとは有難い。私は幸せ者だと思っていたら、春夏連覇なるかと騒がれた夏の大会は、１塁手の足がベースを踏んでいなかった凡ミスで、３回戦で仙台育英に負けてしまった。最強軍団と言われながら何故負けてしまったのか。実は、春は新２年生の５名が主力で優勝した。夏も同じメンバーだから優勝するだろう。との予想。しかし、相手は３年生が主力。負けて当然。春のセンバツ後の愛媛国体では広島の広陵に負けて準優勝。これで３年生とオサラバ。オール２年生でミスした中川を３塁にコンバートし、主将にした。中学時代に146キロの球を投げ、投手、捕手、野手どのポジションも守れる４番打者　根尾昂は２年生でプロ野球スカウトの的だが、本人は京大医学部志望とか。秋季大会大阪予選では４番打者で出場。８回に場外３ランを放ち９対２で履正社を破り優勝。続く近畿大会で優勝したので、春のセンバツ出場が決まっている。春夏連覇を目指しているのは実は今年だったのだ。今年こそ春連覇、２度目の春夏連覇は間違いない。

波乱万丈の年と言えば、米国と北朝鮮の核ミサイル問題が気になる。あんなちっぽけな北朝鮮。金正恩は一体何を考えている。ミサイル飛ばせば２日で北朝鮮は全滅すると私は思っているが、日本の真珠湾攻撃のように先制攻撃をして沖縄、岩国、立川基地を狙われたらたまったもんじゃない。70年前の日本が真面目に米国に勝てる不滅日本を信じ、２発の原爆で敗戦。度々訪朝しているアントニオ猪木当りが、ミサイルの数の比較をして無謀な実験を止めさせられないものか。

名前を「進一郎」に戻して２弾目は、大東市庁舎も古くなり、耐震構造ではないので、建て替えたい。９か所の候補地から選び、官民一体のコンパクトシティを目指している。ポップタウンに移転は可能か検討してほしいという、嬉しい申し出があった。５年前、当社は喜んで提案したが、候補地が５か所に絞られ、更に２か所となり、ついに同点決勝の末、当社案が最優秀賞と決定したのが昨年５月26日。当社のショッピングセンターに市庁舎が隣接するのだ。大快挙だ。

更に、私事になるが、以前、大東市民まつりにチンドン屋で出場した際、化粧を落として化粧室から出た途端、足を滑らせ転倒し、左足を骨折した。ギブスなら９日、手術なら６日で退院と言われ、手術をしたのが間違いのもと。縫い口から菌が入り、足が２倍に腫れ上がり、骨髄炎の恐れありと２度目の手術。結局47日も入院することになり、学生時代卓球の選手として名古屋大学と戦った立派な足は無残にもアウシュビッツ収容所の囚人の如くやせ衰え、筋肉が無いため膝関節が痛み、不自然な歩き方をしていたらパーキンソ病と診断され、それで28年間医者知らずの私が一昨年ポリープ摘出、胆石摘出、胆嚢切除。そして、昨年は誤嚥性肺炎と診断され、同年代の永六輔、大橋巨泉、仲代達也、蜷川幸雄が同病で亡くなっているので３か月安静にしていたら歩けなくなり、悪くなる一方。ついに同い年の黒柳徹子の様に車椅子生活を覚悟したが、幸いな事に沢山の友人から良い整骨院を紹介され、片っ端から訪ねる事53か所、ついに膝痛の原因解明と原因除去。あとは日にち薬だ。ボチボチやりなはれ。と言われるが、４年も過ぎ、85歳となる。急がねば。やり残したことが多々ある。あれもこれも。パーキンソン病が治れば、それこそ奇跡…。

（電気　昭和32年卒）